



## アクティブラーニングゼミの近況

紅葉の映える季節が訪れたのもつかの間、早くも冬の足音とともに今年も残すところあと1ヶ月となりました。LABO7で取り組んでいるアクティブラーニングの10・11月の近況をご紹介します。

小4クラスでは、「**ディベート高学年版**」を実施しました。生徒たち自身で決めた論題は「朝食にふさわしいのは、パンよりもご飯である。是か非か」。系列のシーガルスクールでは小1から毎年ディベートを行っていますが、LABO7の4年生からはより本格的な議論となるよう、「なぜそのような意見なのか、“理由”や“根拠”を明確にする」ことと、「信ぴょう性のあるデータや資料を引用する」こと、そして「3分間の立論や2分間の反駁など、限られた時間を最大限に活用して自分の考えを伝えきること」を意識して下調べを行い、本番に臨みました。ディベートは、ただ自分の意見を主張すればよいのではなく、相手の意見をしっかり受け止めたうえで、相手の論理の矛盾点を適切に指摘し、自分の意見の優位性を伝えるという、たいへん高度なコミュニケーション力が問われます。生徒たちはその難しさを実感するとともに、「次は高学年の子たちと一緒にやりたい!」と意欲を見せていました。

小5クラスでは、「**カレーライスの誕生**」という文章の、日本とインド・スリランカのカレー、東日本と西日本のカレーのそれぞれの対比から着想して、二つの地域の食べ物や生活様式を対比して比較・分析するテーマに挑戦。何と何の、どんなものを比較すればよいのかに頭をめぐらせていましたが、「同じ島国で、環境問題のあるツバルと日本の生活がどう違うか」や、「日本とアメリカの“すし”の違い」「ジャボニカ米・インディカ米などの米の種類とその違い」などについて調べました。様々な情報があふれ、自分が何もしなくても知識が与えられることに慣れてしまいがちな昨今だからこそ、「問題意識をもち、自分で調べ、解決する」力は、人工知能(AI)にはできない人間ならではの力としてますます大切になってきます。考えることを面倒がらずに、一つずつ追究している粘り強さをつけていきたいところです。

小6クラスの「Mix」では、食生活をテーマに、「自分がレストランのシェフになったときに、ぜひみんなに食べてもらいたい**“おすすめメニューを作る”**」ことに挑戦。中には主食がかぶってしまったたり、メインディッシュがなかったりするハプニングもありましたが、栄養のバランスを考えたり、いろどりを考慮したり、美容と健康を意識したりなど、三者三様、十人十色のオリジナルメニューを作りました。メニュー作成後は2分間のプレゼンタイム。あえて事前準備をさせずに即興で伝えるという難しさにもかかわらず、みなタイマーを見ずに2分ちょうどで説得力あるプレゼンができるようになった点は、6年生の大きな成長です。

そしてこれから、私立中学生はそれぞれ新しいテーマに挑戦。中1生は「**2030年、アジアで最も経済力が強いのはどの国か**」や「もし今EUがなくなったら、28か国のうちどの国が“生き残る”か」という国際的なテーマに挑戦。経済面だけではなく、複合的な要素が絡み合い一言では語れないからこそ、多面的に物事をとらえる力が求められています。中2生は公立生も取り組んだLABO7の代表的テーマ、「**信長・秀吉・家康のうち、総理大臣に相応しいのは誰か**」。今回はさらに、総理大臣と戦国大名とのリーダーシップの比較を加えて検証します。また、公民を習っている中3生は、「**自分が総理大臣になるための最短距離を未来年表で示し、プレゼンせよ**」というテーマを開始。国会・内閣について習った知識を駆使しつつ、自分に置き換えて総理大臣になるためのプランをどう描くか、キャリア教育としての要素を込めたものです。

中学生は来る12月16日のCOLABO・コミュニケーション授業は全学年合同で開催することになりました。8月以来の合同イベントとなりますが、2学期で得た経験を活かした成長ぶりを発揮してくれるのではないかと、期待が膨らみます。